

世界百名山と囲碁

碁楽連理事 刀根 正樹

人間は奇妙な動物で、山にあこがれ恋人のように愛し登山する。また囲碁に熱中し石を握りしめる。夢中になると詰碁の形が名山に見えてくる。新宿のデパートに古書市があり、深田久弥著『世界百名山』を買った。昭和49年の発行、写真入りで名山を紹介している。日本の山では富士と阿蘇が選ばれている。百名山の中には知らない山もいくつかあった。

山は気高く美しい。人々は地元の山を愛し登山をして信仰の対象にもする。北野の住民も高尾山によく登る。人間は山と一体化し溶け込み幸せになる。私は若い頃には盛んに山岳行を楽しんだ。今は体力に自信がなく、山の写真や本をめくり山への思いをさせている。

平成22年正月、北野市民センターの展望室から白妙の富士を眺めていた。急にふと一念発起し日本棋院の週間碁『段級位コーナー』に挑戦する夢を抱いた。「君はよく本を読むが実戦に弱い。わしは本など読まぬ、戦いの実力は君より上だ。無駄なあがきはやめたまえ。日暮れて道遠しさ」といって碁敵は怪鳥のように笑った。

往復ハガキを購入し軽い気持ちで問題に取り掛かった。思いのほか難しく、惨憺たる結果が日本棋院から返送されてきた。布石、中盤の問題はまだよかった。詰碁が難関あった。丸一日石を並べても、まったく判らない問題ばかりである。目かすみ頭がふらふらする。詰碁の形が山に見えてくる。碁盤の中から世界百名山が浮き上がってきた。

ヒマラヤの山中を私はさまよっていた。エベレストはヒマラヤの銀座か原宿と化していた。怪峰ダウダギリは私の前に立ちはだかり、歌舞伎の助六のように、ニヒルな白面で大見得を切った。

「百年前のことよ。河口慧海という日本の坊主がそこに立ちポカンとわしを眺めておった。汝はその弟子か。なに、囲碁。ムフフ」。花嫁の峰と呼ばれるチョゴリザが、うれしそうに語りかけてきた。ヒマラヤの高峰の中で際立った美しさだ。「日本の男、大好きだ。あたいは処女をあげたのよ。あんたも好みのタイプかしら」

インダス河の大峡谷の奥に、巨大な白虎がうずくまっている。シェルパも怖れる人食い虎、ナンガパルパットである。山には魔物が住む。その魔王がいう。「てめえは老人でまずそうだ。目ざわりだ。クレパスに埋めてやろう」

ヒマラヤの山岳行きはきつかったが、楽しく快感に満ちた旅であった。雪崩が流れてきて私は押し流された。クレパスの亀裂に落下し、凍死しかかり、囲碁のスランプに苦しんだ。新緑が萌え始め、ようやく私はアイスフォールをかきわけ尾根にたどりついた。

雲晴れ、アフリカの王、キリマンジャロが姿を現した。文豪ヘミングウェイが、『地球のように広大な山頂』と作品に描いたが、私から見れば巨大なカボチャに似ていた。深田久弥によれば、山頂に安置された銅板に、次のメッセージが刻まれているという。「われわれは、彼方の国境に輝くキリマンジャロの山頂に灯をかがげよう。絶望のあるところに希望を。そして屈辱しかなかったところに、尊厳を与えるために」タンザニア初代大統領、ジュリアス・K・ニエレシ。ドイツの植民地のタンザニアは、独立を求めてナチスと戦った。絶望的な戦闘の中、人々はキリマンジャロを見詰め力を得た。私もまた、囲碁の詰碁には絶望から脱して希望を。口の悪い碁敵には愛を。そして人間の尊厳を求めることが、私には必要だと覚った。

さて、ここで名山の形をした詰碁を紹介したい。

(1) K-2山 8,600m 世界第2位の高峰。写真家の白川義員は、NHK『世界百名山を撮る』の中で、『カラコルムの帝王、地球の牙』と評した。パキスタンで熱狂的な人気。タリバンのエネルギーの源である。

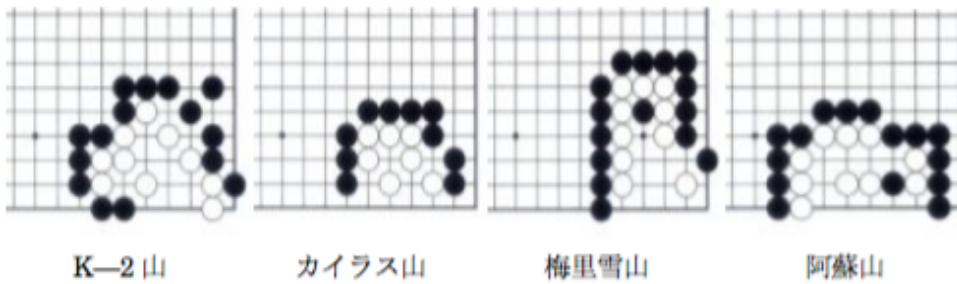
(2) カイラス山 6,715m 未踏峰、チベットの信仰の山、聖地。シバ神の玉座であり、山そのものが、世界最大の男根といわれる。人々は五体投地をし、山の周辺を巡る。中国の登山家は、この山を征服する日を狙う。無信仰者と熱烈な信者。インド神話の戦記が出現するか。

(3) 梅里雪山 6,740m 未踏峰、中国四川省の西方にそびえ、主峰をカワカブと呼び、処女のような美しい姿態をしている。チベットの巡礼者は、その峰を一目見ると、五体投地をして涙を流す。しかし、この処女峰男を誘う魔女のような妖艶な凄味がある。1991年京大山岳会11人、中国人6人が遭



難死した。日本海外登山史上、最大の遭難事件という。付近に不老不死の伝説の里シャングリラがある。メコン河や長江もこの山を水源としている。

(4) 阿蘇山 1,594m 世界最大のカルデラ火山である。20 億年前に大火砕流を起こし誕生した。外輪山に立てば、火口の中に立ち並ぶ阿蘇五山が、釈迦の寝姿、涅槃にみえるという。徳富蘇峰は、その絶景を見られる地点を大観峰と名付けた。その涅槃の姿を私はテレビで見た。それはみずみずしく若やいでいた。私には美女の寝姿に見えたのである。古事記の神話に登場する女神が、うれしそうに仰向けに横たわり、腹部にある中岳の火口は優雅に噴煙を立ち昇らせている。それは地球の深部に達する子宮であり、やがて美しいマグマを見事に爆発させて、新しい時代、新しい子孫を誕生させるであろう。



(碁楽連だより 5月号 第225号 平成22年5月1日)